



ユネスコスクール便り

No.113

令和4年 3月 8日

大牟田市13校スクール

担当者通信

特色ある実践事例の紹介

今号では、各学校の特色ある実践事例をご紹介します。

地域とつながるプロジェクト 平原小学校

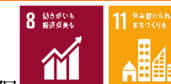


平原小学校では、地域とのつながりを大切に活動に取り組んでいます。昨年度は、消費者教育の一環として「平原スマイルショップ」でのオリジナルエコバッグづくりに取り組みました。今年度は平原フェスタでの「平原っ子ショップ」開催を目指していましたが、フェスタの中止を受けて、育てた作物や種子、教科学習の成果物などを地域の方々に配布することとしました。作物づくりは、実行委員を中心に、水やりや草取りのボランティアも参加して数種類のカボチャを育てました。今年度育てたカボチャは、校区内の子ども食堂で使っていただきました。まちづくり協議会などと連携を図りながら、今後も地域とつながる活動を続けていく予定です。



ボランティアさんとの水やり作業

橘 未来創造プロジェクト 橘中学校



新型コロナウイルス感染症拡大の影響で体験活動が制限される中ではありましたが、本校では『橘 未来創造プロジェクト（通称：ミラくるプロジェクト）』と題し、各学年で今できる体験活動に力を入れました。第2学年では職場体験活動に代わる活動として、一般社団法人大牟田ブリッジや大牟田商工会議所の協力のもと、地域で活躍されている方からお話を聞き、さらに大牟田の特産物を使った新しいスイーツの企画書を作成し、お菓子屋さんやデザイナーにプレゼンする活動を行いました。この活動で評価が高かったスイーツは、商品化されて販売し、大好評でした。

これらの活動を通して、生徒達は、達成感を味わい、自己の生き方について深く考える機会となりました。



作成した企画書をプレゼンして評価を受ける生徒

自助・共助の力を身に付けた児童の育成 みなと小学校



防災士の方から簡易防災グッズの作り方を教わる児童



防災に関する地域の様子をフィールドワークする児童

みなと小学校では、海洋教育の一環として防災・減災教育に取り組んでいます。児童に防災・減災についての資質能力を身に付けさせるために、「避難訓練・集団下校訓練」「『防災・減災を考える日』（7月6日）」「総合的な学習の時間」の三本柱で教育活動に取り組んでいます。『防災・減災を考える日』では、全校集会やGTによる簡易防災グッズの作り方指導、避難訓練など、終日にわたって学習に取り組みました。また、総合的な学習の時間においては、5年生は地域の危険箇所や浸水時に避難可能な建物などを調べて防災マップを作成する活動、6年生は地域の防災意識を高めるための方法を話し合い、様々な活動に取り組みました。

